



— 環境省グッドライフアワード —

Good Life Award

環境と社会を良くする取組を表彰します

10周年特別賞 ロングライフ賞 受賞

サンゴ礁から学び「100年後に残す」 ことを目指した将来の人材と地域の創造

NPO法人 喜界島サンゴ礁科学研究所



第10回グッドライフアワード

10周年特別賞
ロングライフ賞

取組名 サンゴ礁から学び
「100年後に残す」ことを目指した
将来の人材と地域の創造

NPO法人喜界島サンゴ礁科学研究所 殿

あなたの取組は
「第10回グッドライフアワード」における審査の結果
高く評価されました
よってここにその栄誉をたたえ表彰いたします

令和4年 12月 3日

グッドライフアワード実行委員

委員長 益田文和

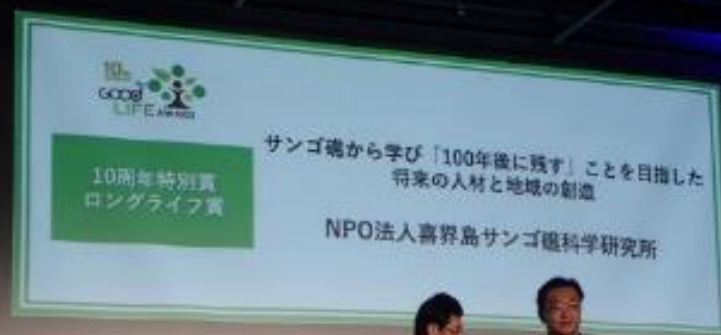


— 環境省グッドライフアワード — Good Life Award

環境と社会を良くする取組を表彰します

2022年12月

サンゴ礁を通じた活動が、SDGsを体現する取組を表彰する「環境省グッドライフアワード」で10周年特別賞ロングライフ賞を受賞。持続可能な社会の実現に資する活動として評価を受ける。

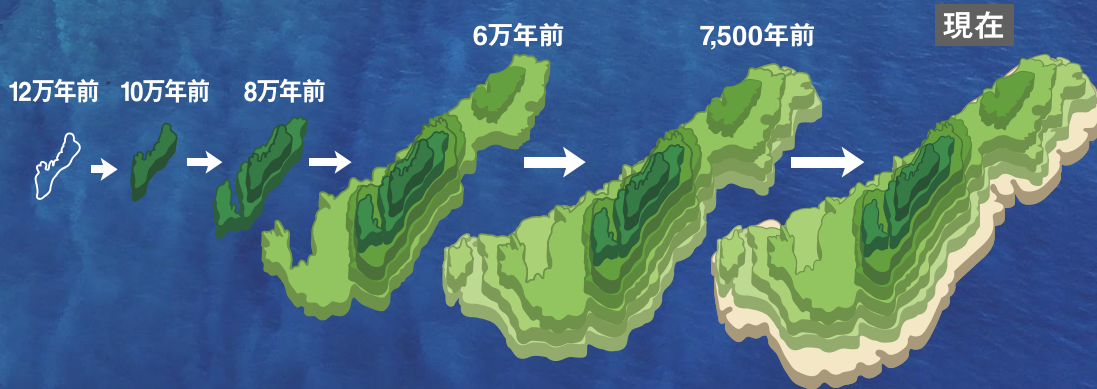


喜界島は世界有数の サンゴ礁研究のフィールドです。

喜界島は、過去10万年間で年間約2ミリメートルという地質学的に非常に早い速度で隆起をし続けている隆起サンゴ礁でできた島です。これは、世界的に見てもバルバドスやパプアニューギニアと並ぶ希少な存在です。海洋・気候に対するサンゴ礁生態系の応答を陸上で詳細に観察できる場所は、他に例を見ません。



地殻変動により海底が隆起し、浅場となった所にサンゴが住みつき、サンゴ礁を形成したのが喜界島の始まりです。その後、さらに隆起して、海の中にあったサンゴ礁が島になりました。それから10万年間、隆起するたびに島の周りにサンゴ礁が広がり、また隆起する…というのを繰り返して現在の喜界島の形になりました。



荒木集落沖の巨大ハマサンゴ 445歳！！
(1578年～)





喜界島サンゴ礁科学研究所は、2014年に喜界島の旧早町小学校の校舎を利用して設立しました。サンゴ礁とそれに関わる生物の研究および科学教育の拠点として、「100年後に残す」の理念の下、研究者や科学を振興する市民に、研究教育および普及の場を提供し、自然科学の発展と喜界島の経済的・社会的・文化的発展に寄与するための活動を展開しています。

●取組概要

■研究活動：

サンゴ礁科学を柱にした研究拠点は世界的にも希であり、また北西太平洋を代表する海洋・環境観測地点として機能させ、地球規模での気候変動解析と未来予測のために必須である一次記録を次世代に残す役割を担う拠点となる研究活動を展開します。また、サンゴ礁に関する多様な研究活動を推進します。

■取組方針：

「100年後に残す」の理念のもと、これからの世界、持続可能な社会の実現を牽引する科学者及び教育者の育成による将来の自然科学の発展と、持続可能な社会づくりに繋がる活動を目指します。



●島のサンゴ礁をまもる活動

喜界島のサンゴ礁のモニタリングや、保全活動。
サンゴ礁教育に取り組んでいます。

2018年：島内でのビーチクリーン活動開始
喜界町立喜界小学校、早町小学校に
おける5年生を対象とした環境教育
「サンゴ学習」開始。

2019年：荒木沖にてリーフチェック開始

2020年：喜界島小野津沖で琉球列島最北端の
アオサンゴ群生確認
鹿児島県立喜界高校における探究的な
学習の時間の講師を派遣。

2021年：アオサンゴ群生モニタリング開始
喜界島アオサンゴ群生保全協議会設立
喜界町喜界中学校におけるサンゴ体験
学習の実施。

2022年：アオサンゴ群集付近の小野津沖に海洋
観測ブイ設置



■サンゴ礁からの学び KIKAI College

「KIKAI College」は喜界島サンゴ礁科学研究所に付属する教育機関です。サンゴ礁科学を柱に、学術分野、地域、社会において人と地球環境のあり方を考え、より良い未来を創造する人材を育てる広い年代を対象とした実践型の教育プログラムを提供しています。

●サイエンスキャンプ

喜界島サンゴ礁科学研究所では、2015年より毎年、夏休みの期間に全国の小中学生・高校生を対象に、喜界島に滞在して学ぶサイエンスキャンプを実施しています。このキャンプでは、現役のサンゴ礁研究者が国内外からメンター(指導者)として集まり、小学生、中学生、高校生、大学生、大学院生をそれぞれ含む研究チームを結成して、チームのテーマに沿って3日間、フィールドワークから分析、発表までの過程を体験的に学習します。研究で得られた成果は、日本サンゴ礁学会で発表しています。



●サンゴ塾

2018年から開始したサンゴ塾は、オンラインで日本全国・海外からでも通年で学べるプログラムです。現役の研究者によるフィールドワークとさまざまな講義を通して、課題解決能力を養います。子どもたちが興味を持った分野にアプローチし、本格的な研究を体験できる唯一無二の教育の場です。また、昨年2021年は沖永良部島で、2022年は与論島で出張サンゴ塾を開催しました。

●インターンシップ

喜界島サンゴ礁科学研究所における研究・教育・普及事業の実施や補助、サンゴ礁の科学や環境の普及イベントの運営などを、約1ヶ月間の滞在中に体験します。この就業体験を通じて、研究教育事業による社会貢献の意味や、地域づくりに必要なコミュニケーション能力など、今後の社会において必要なスキルを体験的に修養します。これまでに、国内外から多くの大学生や社会人が参加しています。

●サンゴ留学

サンゴ塾の高校生2名が喜界島に移住したことをきっかけに、喜界町企画観光課、教育委員会、小中学校、高校と教育協議会を設立し、サンゴ留学制度を設けました。サンゴ留学生は高校3年間をサンゴ礁の研究活動や島の環境保全活動に取り組みながら過ごします。



●取組みの事例

■サンゴの島の暮らし発見プロジェクト

島のサンゴ礁生態系と人との繋がりにより醸成された「サンゴ礁文化」の保存継承と活用。

- ・ 集落ごとのサンゴ礁文化の掘り起こし調査
- ・ 喜界島のサンゴ礁文化のリスト化
- ・ 喜界高校美術部がサンゴ礁文化のイラストを描き、サンゴ礁文化の紹介冊子作製
- ・ 早町小学校児童による石垣修復体験活動実施
- ・ 2021年3月島のサンゴ礁文化を紹介し考える「サンゴ礁文化フォーラム」開催
- ・ いざりやイソマグロの追い込み漁などの伝統的漁法の再現や体験
- ・ サンゴ礁文化を巡る集落ツアーの開発と開催

**サンゴ礁文化を保存継承する
自主活動組織の設立に至る**

2021年

- ・ 阿伝集落サンゴの石垣保存会設立
- ・ サンゴ礁文化保存継承団体「荒木もりあげ隊」結成



■サンゴ礁を通じた地域との取組

●ScENEプロジェクト

研究所では異分野の研究者間のコミュニケーションや、研究成果の地域への還元に『演劇』の手法を用いる試みを行っています。演劇作家の平田オリザ氏に監修していただき、研究所に関わる研究者、劇作家、島の方々、大学生が分野を超えて協力し、異なる時代の”喜界島”を描いた4つの演劇を作り上げました。2021年11月に喜界島で初公演し、その後、鹿児島、札幌、東京で上演しました。



●アンソロポリウムプロジェクト

星空人類学を意味するアンソロポリウム。2021年11月「サンゴ礁から星空へアンソロポリウム2021」を喜界島で移動式のプラネタリウムを設置して開催しました。南山大学の後藤明教授にご協力いただき、喜界島の民話を元に、サンゴ礁と星空をつなぐプラネタリウムを上映。プラネタリウムのナレーターは、島の子供たちが一生懸命練習して務めてくれました。

喜界島サンゴ礁科学研究所
KIKAI Institute for Coral Reef Sciences

喜界島 KIKAIJIMA in Parallel World

喜界島が舞台の演劇誕生

喜界島の
島の子供たちが
一生懸命に
練習した

喜界島の
島の子供たちが
一生懸命に
練習した

制作も演出も出演も
研究者×劇作家×しまんちゅ×大学生

11.7.SUN 喜界町役場 コミュニティセンター

公演スケジュール 監修・指導：平田オリザ

13:30~ オープニング・番組説明
13:40~ 演劇①『喜界島三ツ巴見舞』
14:20~ 演劇②『ウル神様は突然に』
15:50~ 演劇③『サンゴの味方、ヒメの味方』
16:20~ 演劇④『自願したい男』
16:40~ 総評 平田オリザ氏

プラネタリウムがやってくる!
アンソロポリウム 2021
同日・同会場内開催

サンゴ礁から星空へ
アンソロポリウム
2021

11月7日 喜界町役場コミュニティセンター
【プラネタリウム(各回30分、20名入場)】★無料★
喜界島の4海域(喜界島、黒島、黒島、黒島)を舞台にした紹介するアンソロポリウム
公演で喜界島の子供たちが一生懸命に練習した

【会場】喜界島 in Parallel World(各回20分) ☆無料★
喜界島の4海域(喜界島、黒島、黒島、黒島)を舞台にした紹介するアンソロポリウム
公演で喜界島の子供たちが一生懸命に練習した

【上映】喜界島の4海域(喜界島、黒島、黒島、黒島)を舞台にした紹介するアンソロポリウム
公演で喜界島の子供たちが一生懸命に練習した

13:30~ 総評 13:40~ 15:50~ 16:20~ 16:40~ 総評

約14.5m

Presented by
喜界島サンゴ礁科学研究所
KIKAI Institute for Coral Reef Sciences

■サンゴ礁を通じた地域との取組

●喜界島草舟プロジェクト

自然科学に限らず様々な分野で研究・教育・普及の活動をしている研究所は、草舟制作を通して島の歴史や人類学、資源などの学問に興味を持ってもらえるきっかけを提供したいという願いのもと、冒険家の石川仁さんにご協力いただき、2022年3月に喜界島の在来植物を使った草舟の作製に挑戦しました。力を合わせて島のススキを刈って干し、それを束ねて完成した船は、見事に浮かびました。更に8月には、島の概要に出る実験にも成功。目指すは喜界島から奄美大島への航海です！



●喜界島サンゴ図鑑100年プロジェクト

研究所の「100年後に残す」という理念のもと、クラウドファンディングで資金を集め、今年の6月に「喜界島海と陸の造礁サンゴ図鑑」が完成しました。サンゴ図鑑では調査で見つかった150種類以上のサンゴを生体、骨格、化石の写真に分けて掲載しています。喜界島のサンゴ礁の今を記録することで、未来の研究者がこのデータを活用し考える事ができる資料の完成を目指しました。



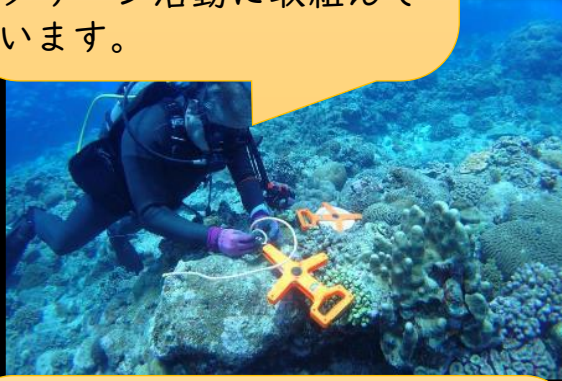
地域社会への貢献

環境面への貢献：サンゴとサンゴ礁の研究活動。島民と協働したリーフチェック、アオサンゴ群生の保全と活用、ビーチクリーン活動に取り組んでいます。



社会・経済への貢献：喜界島の小中高校でのサンゴ学習の実施、研究所への来所者による交流人口の増加と島経済への寄与など、島社会と経済への寄与は多岐に及びます。

地域資源の活用：島に残るサンゴ礁文化を掘り起こし、島の共有財産として保存活用する「島の暮らし発見プロジェクト」を島の方々と行政と共に推進しています。



行政との協働：研究所の活動が喜界町の施策や計画の実現に資すること、また継続して喜界町と共に活動することを目指し、喜界町と包括連携協定を締結しました。

多様な体験の場の創出：研究成果を伝える演劇、島の音楽、写真などの芸術を通じた表現活動、プラネタリウムや古代舟の作製など、サンゴ礁環境を身体的に理解する活動に取り組んでいます。

普及・汎用性：研究者・科学を振興する方々に研究教育および普及の場を提供し、自然科学の発展と地域経済・社会・文化的発展に寄与する役割を目指します。



「100年後に残す」ための持続可能な地域づくりへ



これらの活動を「喜界島モデル」として奄美群島、国内外へ水平展開を目指します。